

卓 話

平成 14 年 2 月 12 日

岐阜こぼれ話

講師 波多野寿勝 様

講師の略歴

岐阜県史編纂室・岐阜県教育委員会・笠松町下羽栗小学校長・羽島郡千町教育委員会課長・岐阜県歴史資料館長・岐阜市徹明小学校長・岐阜城副館長

岐阜こぼれ話ということで岐阜にまつわるちょっとした小話雑学明日人に話したくなる話を3つほど話させて下さい。

「日本のへソは文化の接点」

岐阜は日本のへソだの日本東西の真中と言われますが、地理的な話だけでなく東と西の文化風俗の境目であったりします。例えば正月の雑煮を見てみると東の方では餅が角餅ですが、西では正月早々角張ったものが食べられるかと言う理由で丸餅をいただきます。ちょうど境目の岐阜は、角の所もあれば丸の家もあるというごちゃ混ぜになっています。

同じように東が赤みそ、白ねぎ、ウナギは背開き、蕎麦文化であるのに対し、西は白みそ、青ねぎ、ウナギは腹開き、うどん文化なのですが、岐阜は境目なのでごちゃ混ぜ状態どっちもありのようです。東と西が混ざりあって岐阜独自の文化を作ってきたようです。

「築城 800 年 鶉飼 1300 年」

築城 800 年の築城されたものはもちろん岐阜城のことですが、800 年前鎌倉時代建仁元年 1201 年、二階堂山城守行政という名の武将が稲葉山に城を築いたという話が、江戸時代のいくつかの書物から出てきました。しかし、調査しても行政が美濃に領地を持っていたことはないというのだ。元来行政は藤原行政として京の公家の出身で源頼朝が幕府に招へいされ、財政行政軍事など幕府のしきたりを作っていた人物で、岐阜とは何の関係もなかった。やがて時はたち蒙古襲来により西国が壊滅させられていたころ、行政の代から数えて 5 代目にあたる二階堂出羽守行藤と



いう人物が、関市の吉田村に領地を持っていました。

行藤は新長谷寺吉田観音に寄付をして、立派な寺に再興した人物でもあるのですが、同じ頃蒙古に備えて拠点にのろし場が設けられ、美濃には稲葉山に設置されたようです。その辺の事実が混ざりあい、行政が稲葉城を築城したという話になっていったようです。

次に鶺鴒が始まって 1300 年ということなのですが、これも根拠があつてないようなものなのですが、世界で 1 番古い戸籍大宝 2 年(702)のものが、東大寺正倉院に所蔵されていたのですが、その中に御野国各牟郡中里という現在の各務原の那加の辺りの戸籍が見られたのです。そこに酒人部意比という人の妻として、鶺鴒部目都良賣という名前が書かれていました。645 年大化の改新後部民制というものができ、自分の職業を名前に付けていました。よって 702 年、鶺鴒部なので鶺鴒をしていた。鶺鴒があつたのは確かであるということになります。けれど実際のところ 702 年より以前から鶺鴒は行われていたろうと思われまふ。ただ証拠としてあるのが、702 年なので 1300 年となったという訳です。

「地名としての岐阜」

最後に岐阜という名前がどこから付けられたのか、誰が付けたかのかという話をしましょう。永禄 10 年織田信長は稲葉山を占拠し天下統一の足場としました。これを契機に信長はそれまで井ノ口と呼ばれていたこの土地を良い地名に変えたいと考えました。そんな折、信長に仕えていた沢彦という僧の進言があつたそうです。

古代中国で天下を統一した岐山という国の岐と、曲阜という国の阜から岐阜と名付ければ縁起が良いのではと言う。そういう理由で岐阜という名前が付いたという話はあまりにも有名で、ご存知の方も多いかもかもしれません。しかし、実はこれはまっかな嘘で岐阜という単語はそれ以前にも出てきているのです。その根拠として、室町時代東陽英朝という名の禅宗の偉大な僧がいたのですが、その僧が同じく室町時代美濃の国を治める莫大な財政力で室町幕府を支えていただけでなく、土岐氏その土岐氏の重頼の絵画像の中に、金華降神岐阜鐘秀という書を書いたというのです。金華稲葉山に神が下って非常に良い場所だ。岐阜に日本中から秀才を集め文化学門の中心にするんだという言葉らしいのですが、室町時代にすでに岐阜という単語が存在したことになります。どうやらそのころの禅宗の僧は、岐阜という単語を盛んに使っていたようです。由来は土岐市の岐・阜というのには真中という意味があることから岐阜となったようです。